

生物多様性はままつ戦略 2024

概要版

海から山まで 多様な生物と人々の暮らしが共存する都市
～はままつから、“ネイチャーポジティブ”へ～



生物多様性はままつ戦略とは？

地球上には、未知の種類を含めると3,000万種もの生物が存在すると考えられ、互いにつながりあって生きています。多様な生物がいること、それらの生物が関わりあい、様々な環境に合わせて生きていることを「生物多様性」といいます。

生物多様性の恵み



生物多様性の恵みのおかげで生活や産業が豊かなものになっているのね。

● 生物多様性の恵みに支えられる私たちの暮らし

私たちの生活は、自然が生み出す生物多様性の恵みに支えられています。

例えば、食料や木材などを与えてくれたり、大雨による土砂災害を防いだり、レジャーや憩いの場となったり、人が生きていく上で必要な酸素を供給する機能があります。



《生物多様性の恵みと私たちの暮らし》

「生物多様性はままつ戦略2024」
について紹介します。



今、生物多様性は開発や乱獲、自然に対する働きかけの減少、外来生物や化学物質、気候変動等の**様々な危機**により、生物多様性への影響が懸念されています。生物多様性の恵みを将来に渡り継承していくために、私たちは何ができるのでしょうか？一緒に考えてみましょう。

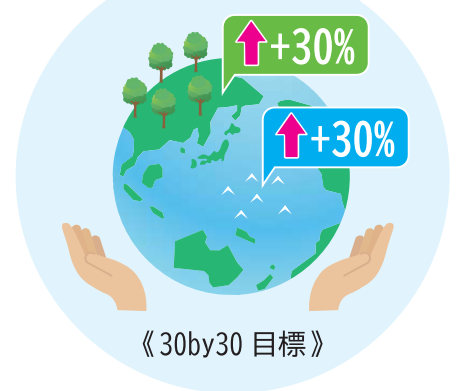


● 戦略の目的と期間

「生物多様性はままつ戦略 2024」は、**浜松の様々な生きものと自然を守り、その恵みを未来につなげていくために、市民、市民活動団体、事業者、市が連携して取り組んでいく行動計画**です。

地球温暖化の進行、大規模な自然災害の発生などの環境の変化に対応するとともに、世界や日本での取り組みを踏まえ、「ネイチャーポジティブ」や「30by30 目標」など新しい考え方を取り入れています。戦略の期間は、2024（令和6）から2033（令和15）年度の10年間です。

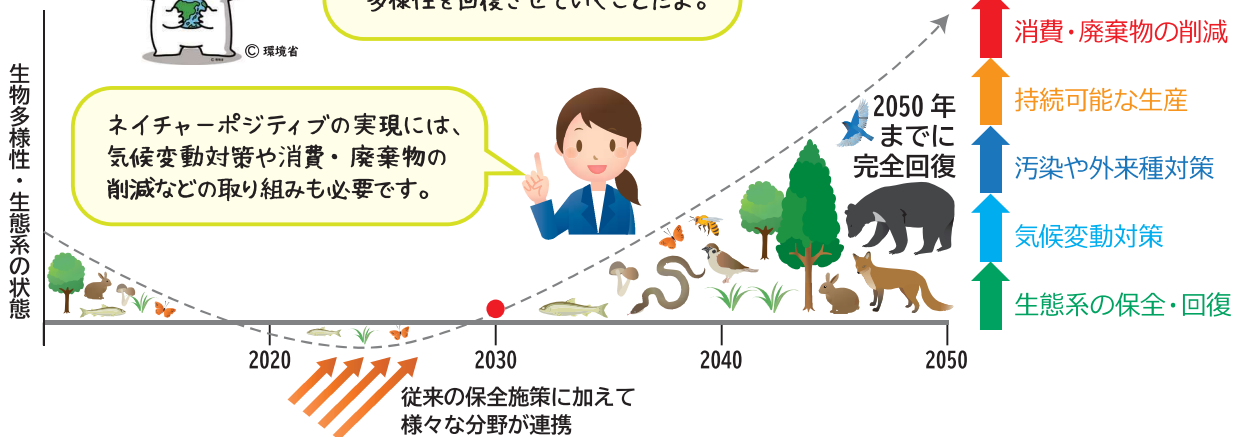
30by30とは、2030年までに地球の陸・海それぞれの30%の面積を保全するという目標のこと



「ネイチャーポジティブ」イメージキャラクター
だいだらぽじてー
DAIDARAPOSIE



「ネイチャーポジティブ」とは、2030年までに失われつつある生物多様性を回復させていくことだよ。



《ネイチャーポジティブの考え方》

目指す将来像と基本方針

浜松市の目指す将来像と3つの基本方針を紹介します。



目指す将来像

海から山まで 多様な生物と人々の暮らしが共存する都市 ～はままつから、“ネイチャーポジティブ”へ～



浜松市は、遠州灘海岸から、浜名湖、天竜川、三方原台地、南アルプス南端部まで、豊かな自然のなかで様々な生物が育まれ、その生物多様性の恵みを利用した農林水産業や工業などの産業が発展してきました。そこで、本戦略では浜松市の目指すべき将来像として「海から山まで 多様な生物と人々の暮らしが共存する都市」を掲げます。さらに、生物多様性の減少を止め、回復させることを主な目標とし、「はままつから、“ネイチャーポジティブ”へ」をサブタイトルとします。

基本方針 1 多様な生物のすみかの保全と回復



コアジサシ

- ▶ 貴重種（絶滅のおそれのある生きもの）の保護・保全、外来種への対策、野生鳥獣の適正管理などを行い、種や遺伝子の多様性を確保します。
- ▶ 森林、農地、河川・湖沼・海岸、市街地の緑地などの保全・再生を行うことで生態系の多様性を確保するとともに、緑地や水辺のネットワークを創出し、生きものの生息・生育場所をつなげます。

生物と生態系を守りましょう！



基本方針 2 生物多様性を守るしくみづくり



浜松市生きものパートナーシップ協定締結式

- ▶ 市民・事業者・市民団体・専門家などの多様な主体の連携を図ります。
- ▶ 施策を効果的に推進していくため、市域の自然環境の動向や動植物の状況を継続的に把握していきます。
- ▶ 保護地域や自然共生サイトのさらなる拡大や質の向上を図るなど、生物多様性を守るためのしくみづくりを行います。

生物多様性を守る社会のしくみをつくらう！



基本方針 3 生物多様性の恵みを将来につなぐ人づくり



環境学習会

- ▶ 生物多様性に関する市民の認知度は未だに低い状況にあるため、生物多様性に関する教育の推進や環境学習指導者の育成、市民が自然とふれあう機会をつくることなどにより、豊かな自然と恵みを将来につなぐための人を増やします。

生物多様性について知ることからはじめよう！

